

■楽しくあることは難しい、されど重要

毎日を楽しく生きるとは難しいことです。元気で新しい刺激に満ちているときは、なんて楽しいのだろう、と思いますが、うまくいかなかったり、嫌なことがあったり、物的な条件に圧迫されているときは、なんてつまらないのだろう、と落ち込むものです。

筆者もいつもその繰り返しです。新しい技術に触れたり、目新しいインスピレーションに浴しているときは、楽しい！早く動きたい！と思いますが、頓挫したりすると激しく落ち込みます。筆者は切り替えが早いほうなので、すぐに復帰しますが、逆に言うと波が多いタイプでした。

瞑想の日々を送って一番変わったことは、この抑揚がなくなったことです。揺らぎはありますが、大きく心を動かされることもなくなりました。ただ、そのぶんだけ感情の盛り上がりも今までとは異なっており、これで本当に作品に愛がこもるのだろうかと思慮することもあります。それでも、せっかく生きていますから楽しまねば損でしょう。ここでは自らの体験をもとにした、落ち込んでいるときから復帰する方法などを記していければと思います。

私自身もまた、こうしたコツを思い出すためにも必要なものでしょ

う。

■困難こそ最大の喜び

困難こそ人間性、靈性を磨く最大のチャンス。 まずはこれしかありません。シルバーバーチの**困難の美学**は、落ち込んでいるとき、物的な条件に不満があつてストレスがたまっているとき、すべてに失望しているときには最高の金言です。これから始まり、これに終わると言っても過言ではありません。

わたしたちは靈的存在です。この地上で長い一日を過ごしているだけであり、肉体の死後は靈界に戻ります。これも順序立てて考えれば至極当然の話で、死んだら靈魂になるのならば、それらはいつ生まれているのか？ と疑問に思はずです。

死んだ瞬間に一瞬で生成されるとは思えませんから、人靈が言うように、今こうしているあいだに、**肉体と同時に存在している**と考えるのがスマートでしょう。

そして、実際はそちらのほうが、より実体の本体なわけです。最初から靈であり、それが肉体を通して顕現しているにすぎません。そもそも地上には、靈的資質を開発するために訪れます。靈界でも、自ら困難と接するために、あえて下の階層に降りることも多々ありますの

で、魂が成長するには困難が必須となるのでしよう。

霊性の高さは、**自己を犠牲にして他者に尽くすこと**で示されます。つまりは、**遅れている同胞のために、自ら一歩後退し、手を差し伸ばすこと**ですから、地上にせよ霊界にせよ、やることは同じなのです。

たしかに霊界のほうが美しいのですが、死んだら楽になれるというのは間違った考えです。**死んでからも困難と遭遇し続けます**。なぜならば、それが唯一、**神に近づく方法**だからです。

どちらにせよ困難とは遭遇しないとはいけません、これは霊界でも議論があるようで、地上に再生するほうがよいのか、そうして下の階層に魂を送ったほうがいいのか意見は分かれています。ただ、実際に再生が行われている以上、地上人生の意義はとても大きいものだと思われれます。

経験上、困難のあと、一種の強いショックのあとには、**高い悟りが得られます**。すべてのことには意味があり、一定のレベル以上になると、それにふさわしい困難が与えられるのです。そのたびに強くなります。その意味でも、**困難はご褒美**なのです。

シルバーバーチいわく、**困難が来たら大歓迎で受け入れなさい**。

ホワイトイーグルいわく、**カルマとは、困難の仮面をかぶった愛の**

教師です。

というわけで、困難は積極的に受け入れるものなのです。まずはこれが大前提となります。

■物的困窮は、靈的覚醒へのきっかけ

よほど靈的な人間でもない限り、普通の生活で靈的真理に目覚めることはありません。もともと魂に宿されている内在の光はとても小さいものらしく、さらにそれが眠っている状態なので、**覚醒させるにはかなりのショックが必要となる**そうです。そのため、強い絶望や哀しみが必要となるのです。

世間一般で、人が絶望したり哀しんだりするときは、誰か親しい人間が死んだり、収入がなくなったり、仕事があってもうまくいかなかったりと、極限にまでストレスが溜まり、もうどうでもいい！、と自殺寸前にまで追い詰められたときではないでしょうか。

悪い言い方をすれば、自暴自棄になって呆然としているときです。よく犯罪事件が起きると、事業に失敗して自暴自棄になってく、という文面が出ますが、その瞬間にこそ真価が問われているのです。

相手を傷つけてしまうのは、物的な環境が悪いのではなく、やはりその人間が未熟だからにほかなりません。そういったピンチにおいて、

その人間の本性が試されるのです。

人はもともと霊なので、常に親である神への希求が存在します。ただし、普段は煩雑で物的な社会生活に流されているので、これがとても希薄です。食べることに夢中で、なかなか内的な時間が取れません。今の社会は科学信仰が強いので、濃い物質しか見えなくなっているのです。

そこで、物的困窮や親しい人の死などの困難は、実はとてもありがたいものとなります。そのときになって、**物的なものは所詮は影でしかない**ことを悟るのです。

社会システムの不完全さ、独占することの空虚感、人間関係のつたなさなどを痛感し、物的な生活に一時的に強烈な嫌気が差します。それは、**霊的覚醒の準備段階**なのです。

新しいものが手に入るときは、古いものを捨てねばなりません。霊的なものを得るには、物的なものは邪魔になります。その空白感を狙って、**霊的なエキスが染み渡っていく**のです。そして、魂の準備が整っていれば、**その人間にふさわしいレベルの真理**が与えられます。

それが誰の言葉であるかは問題ではありません。仕事一辺倒だった人が、定年後にいきなり仏教徒になったり、突如として宗教という思

想に目覚めるのは、ある程度の人生をやり終え、物的なものへの興味が希薄になった影響が強いのです。

しかも、歳をとると生体磁気が衰えてきますので、性欲や運動能力にも限りが生まれ、より内省の生活にシフトせざるをえないからです。哀しみや絶望が大きければ大きいほど、悟りも大きいものとなります。それは自ら味わったことなので間違いありません。

そして、困難の正体を知った今、あなたは困難を燃える心で迎え撃てるようになるのです。

■不満を感じているのは、すべて低級我

人間の心には、**低級我と高級我**が存在します。人間の身体の仕組みを知るとわかるのですが、私たちの**精神**は主に肉体的な要素を多く含んだ**低級我**と呼ばれるものなのです。つらいのは嫌だな、損ばかりでうんざりだ、といった低級な考えは、これから出ていきます。

一方の**高級我**とは、**霊の心**、**愛の心**であり、こちらは困難を大歓迎しており、自分に必要な体験を与え、正しい反応を示すように光の影響力で導いてくれています。人間の内部では、この**二つの我が常にせめぎあっています**。

魂とは、霊の一部分を包んで生まれたものようで、その内奥に純

粹な愛の心、神の火花の一部が宿されています。これはすべての善性を宿しており、まさに愛そのものともいえそうです。そうです。霊とは純粹なる愛そのものなのです。

ただし、肉体を通じて表現しているあいだは、**肉体**というフィルターを通さねばなりません。地上で培った精神と肉体機能を使用するので、どうしてもその影響を受けます。当たり前ですが、神といえど、地上で表現するには地上の媒体を使用しなくてはならないのです。

肉体は動物性を多く宿しています。食欲、性欲、所有欲など、物的進化の過程でどうしても必要だった性質を残しています。霊が愛を表現しようとしても、これが邪魔をするのです。

昔から漫画で描かれる**天使と悪魔の声**がこの代表例でしょう。天使は良心の声、悪魔の声は低級我の声です。良心が勝った場合は、あなたは善行を施し、霊の支配下に置かれます。逆に低級我が勝てば、つまらないことに固執し、霊は失意を覚えるのです。

よって、我々が感じている不満のすべては低級我から生まれます。大切なことは、そういう打算的な考えが浮かんだら、低級我の声だ、と気づくことです。**困難を嫌うのは低級我の声**であり、愛以外の行為は、すべて低級我のものです。

良心は、常に正しい選択をしますので、イライラせずにその声に耳を傾けましょう。

■お金があっても今と同じ

筆者が一番言い訳にしようとするのが、資金があればもっといい作品が作れるのに、です。正しく言えば、お金があれば時間が得られるのに、でもあります。

時間があれば、じっくりゆっくり開発ができ、それだけきめ細かいものが作れると思うからです。世間一般の人は、誰でも一度は思うはずです。

さて、実はこれ、逆に考えると中身がよく見えます。**お金があることは、今すぐにもできる**のです。

仮に能力のある人に外注したりすればよい作品は生まれるのかもしれませんが、自分の能力が上がるわけではありません。お金があろうとなかろうと、**自分の中身はいつか変わっていない**のです。よい文章を書けるわけでもなければ、絵がうまくなるわけでもありません。それは日々の積み重ねで得られるのです。

お金があれば今すぐにもできることならば、**あえて得る必要はない**のです。重要な点は、自己の能力を上げることなのです。これは仕事の

技量だけではなく、人間性を向上させるために必要なことです。

仮に、自分が大金持ちだったとしましょう。毎日好き勝手やれます。何かあってもお金で解決して困ることはありません。ええ、そんな生活で何が得られるのでしょうか。時間はありますから、絵は上手くなるかもしれませんが、それだけのことです。謙虚さも、果物一つのありがたみも得られないでしょう。

謙虚さは困難の中で学びます。 うまくいかないことを経験しているから、真摯に謙虚にお願いできますし、その上にこだわりや誇りが生まれます。傲慢は困難や貧困によって死に、謙虚さに生まれ変わるのです。

人生に疲れ、何もしたくなく、何をやっても駄目なときに食べる果物だからこそ、こんな自分が果物を食べる資格があるのだろうかと思いつつも、改めて自然への、神への感謝を知るのです。

豊かな生活は人を殺します。 とある役者さんは、役者を殺すには、手放しに三回褒めればよい、と言っていました。安楽さの中で得られる成長は、実にささいなものなのです。厳しい環境だから磨かれるのです。

ならば、これを一つの試練、条件付きのゲームだと思えばよいので

す。限定された条件でどれだけやれるか、そう捉えることが大切です。

これには、物的な環境への「種の諦め」という悟りが必要です。

物的なものは、靈的なものの残りカス、殻の部分にすぎませんから、

より本質の靈的なものを優先すると、物的なものもついてくるのです。

靈的に必要なものは常に与えられています。自分が求めるものを精神的、靈的なものにシフトしていくと、次第に求めるものが変わってきます。

何かあっても、心を落ち着かせてください、あなたの愛が心に満ち、相手を傷つけませんように、と願いが内的な成長にかかわるものへと変化していきます。

まずは、自己の成長を最優先にするべきです。その点、物的な困窮は実にありがたいものです。慎ましく生きていればよいのですから。

逆に豊かな生活は非常に難しいものです。そのお金はすべて神から借りたものであり、最後はすべて返さねばならないのです。あなたはそのお金を何に使ったのですか？ そう問われるのです。

そのため、最後の再生人生に、そうしたお金のある人生を選ぶ人も多いそうです。ただ、大半は誘惑に負け、失敗してしまうそうですが…。

■簡単にできたらつまらない。苦勞すれば何でも愛しい

あの段階では、これ以上はできなかつた、そう思ったときに唯一満足を得られます。たとえレベルが低くとも、現状でできることをすべてやったとき、心地よい疲れを感じるのです。そうすると、すべての苦しみは恍惚感へと昇華され、愛しくなってきました。

誰しも理想はありますし、その通りに進めば、それはそれで嬉しいものです。ただ、成し得てしまうと興味を失うのが人間です。人は満たされてしまうと、それ以外のことに興味を抱くものです。あなたの理想が叶ってしまえば、もうそこでやる事がなくなってしまうのです。

シルバーバーチは、**完全とは、不完全を克服する過程に存在する**と言います。哲学的な話になりますが、完全の中には完全はないのです。闇がなければ光の存在がわからないように、困難があるから成長できるのです。困難に四苦八苦しながらも、理想に向かって努力しているときこそ、**我々は理想を叶えている最中**なのかもしれません。

それが実現しようがしなかるうが、やることに価値があります。目指すことに意味があります。感動の涙は、苦勞が大きければ大きいほど熱くなります。哀しみや困難の大きさは、そのまま感動の大きさになります。それは靈にとって最高のスパイスなのです。そのぶんだけ、

ささいな幸せを噛み締めることができるようになったはずです。

条件が悪ければ、逆に考えるのです。これだけで済むのだから安いものだ。まだ最悪じゃない、と思えばよいのです。神は、乗り越えられる試練しか与えません。自分の心を強く持てば、どんな困難とて克服できるのです。

■ピンチはチャンス

すべての状況が悪くなって、どうにも立ち行かなくなったとき、そのときこそが**最大のチャンス**です。

よくジョコが、勝っているチームは、選手交代をしない、と言っていたように、うまくいっているときは何事もいじらないもので、変化を嫌うようになります。しかし、今までのやり方でうまくいかなかった、あるいは価値がなくなったときには、すっぱりと割り切って古いものを捨て去り、新しいものに挑戦ができます。

物的なものに困窮したときは、逆に言えば**精神を鍛え、霊的修養生活を送るチャンス**なのです。物事の価値観を、地上の物質から、永遠の霊に向けるのです。物質に執着をなくせば、いちいち小さなことにこだわらないようになり、今までの自分の歩みを振り返り、守られていたことがわかるようになります。

筆者の体験では、霊的な悟りは、**嵐のあとの静寂の中で**得られます。物質世界のこたごた、エネルギーの渦に翻弄され、すべてが嫌になったとき、ふいに強烈な静寂の中で神を切望する瞬間がやってくるのです。そのとき、また一つ大きな悟りを得ます。

霊的な悟りを得るためには、こうして何度も嵐に遭遇しなければなりません。つまり、**困難は悟り、つまるところ教訓と叡智を教えてください先生なのです。**

すべては霊から発せられます。物的なことも、すべてそこから生まれるのですから、霊的に正しい生き方をしていれば、背後霊の援助によって最低限の生活は保障されます。あとは、あなたの価値観を変えるだけです。

■必要なものは与えられている

実は、**自分に必要なものは、すでに与えられている**のです。低級我が、もっと欲しい、と言うから不満を感じるのであって、改めて考えれば、本当に必要なものはすべてそろっているはずですよ。

人に必要なものは、最低限の衣食住くらいです。税金を払えなくても死にはしませんし、贅沢品がなくても生きていけます。人の社会が

多くを欲しても、それらを超越できる強さがあればよいのです。そういったものを除外すれば、とても恵まれている人のほうが多いのではないのでしょうか。明日にも餓死しそうなほど苦しい環境の人は少ないはずです。

筆者も、こうして自分のために使えるお金はまったくありませんが、少なくとも今のところは餓死はしないでしようし、なんとでもなりまします。死んだところで、良心に従う生き方をしていれば変なところには行かないでしょうし、仮に暗黒界に行ったとて、そこでベストを尽くすだけなので、神の信頼を失うこと以外に、特に怖れるものはありません。

むしろ、こんな状態でありながら作品が作れることに感謝で一杯です。神は、自分の願いのすべてを叶えてくださっていることに感動すらします。

もしかしたらあなたは、物的な豊かさは全部自分の努力の結果だと思っっているかもしれませんが、それもすべて与えられたものです。

今までの人生を考えてみれば、それがよくわかるはずですよ。すべてにおいて絶妙のタイミングがあり、出会いがあり、起死回生がありました。そのすべてが自分だけの力だと思っ人は、やはりまだ傲慢ですよ。

人は誰しも、親家族を含む他人からサポートされ生きているのですから。それを悟っている人は、霊的に目覚めていなくとも、感謝という言葉を知っているはずです。

そして、それらは**守護霊の導き**でもありません。この世に、背後霊団の影響なしに行動している人間はいません。あなたの身に起こること、物的成功のすべては、神から与えられたものなのです。そのすべては、同胞のために使うために貸し出されています。

あなたは、今の条件下でベストを尽くせばよいだけで、それらの環境と条件はしっかりと考慮されます。今この瞬間、必要なものはすべて与えられているのです。あとは、自分が**納得するかしないか**だけのことです。

■潜在意識に、明るい意識を植えつける

すぐに弱音や愚痴を吐いたり、悪いことを考えてしまう人は、**潜在意識**をうまく使うとよいでしょう。

潜在意識とは、我々の通常の意識、顕在意識の地下領域です。ここには、通常意識できない領域の記憶も残されており、**今まで見たもの聞いたもののすべて**が格納されています。

※前世の記憶もあると言われていますが、今の人類では引き出せない

そうです。

シルバーバーチの話から抜粋すると、

たとえば本を読んでいる途中で、これはどういうことだろうと自問すると、即座に答えが閃くことがあります。それは潜在意識がふだんから**顕在意識の思考パターン**を知っているので、それにそって答えを出すからです。

誰かの話を聞いているときでも同じです。あなたはどう思われますか?、と不意に聞かれても、即座に潜在意識が答えを用意してくれます。

※シルバーバーチのスピリチュアルメッセージ P179

このほか、歩いたり食べたりする際の筋肉の動きなど、無意識に行う身体の動作は、すべて潜在意識がやってくれているのです。赤子のときは意識的にやっていたことを覚え、自動的にやってくれる機能があるのです。

さて、これをよい方向に利用します。たとえば、自分が嫌だと思っていることに対して、**よい意識付け**をするのです。

嫌いな人の名前のあとに、**素敵な人だ、素晴らしい人だ、**などと意識的に関連付けていくと、その人を思い浮かべただけでその言葉が連想

されます。そうになると、だれだれ、素敵な人、という言葉が勝手についてきて、実際にそう思えるようになるのです。

困難についても同じで、新しい体験がやってきた、ドキドキ、ワクワクする、こんな体験、今しかできないぞ。楽しみだな、お金があったら、こんな大変さは感じなかった。成長のチャンスだ、と、常に楽しいことと結びつけるのです。

常に明るい言葉、楽観的な言葉を意識すると、潜在意識がそのパターンを覚えてくれて、自然と明るい考えが浮かぶようになります。そうすると、あなたの想念が少しずつ浄化されていって、幽体も浄化され、オーラも綺麗になっていきます。

オーラが綺麗になると、印象も変わっていき、見る人にも心地よい気持ちを与えます。なんだか彼、彼女といると安らぐな、というのは、オーラから得る印象が大きいのです。

その逆に、常に悪いことを考えている人は、潜在意識にパターン化されてしまいますので、幽体も質が悪くなり、オーラも黒くにごってしまうのです。

せっかくこうした機能があるのですから、有効利用すべきでしょう。筆者も雑念が交じるときは、よくこれを利用しています。そんなに難

しいものではありませんから、ぜひどうぞ。少し訓練すれば誰にでもすぐできるようになります。

■こうだと決めつけない。常に新しいものを探す

何事も、こうしなければいけない、という考えで動く、いつか疲れるものです。気負ってしまうと萎縮して魅力がなくなります。つまらなくなります。

すべての美しさは、自由に翼を広げてこそ生まれるものだと思います。つまり、いくら売れていても、同じことを続けないことです。日本人はマナーを楽しめるところがあるのでよいのですが、創造とは生み出すことであり、常に変化するものです。**常に新しいことを試す**と人生は面白くなります。

それには**煩悩の減却**が少し必要です。新しいことをするということは、今までの概念からはみ出すことを意味します。出る杭は打たれるという言葉のように、さまざまルールが立ちふさがります。それによって頓挫したり、苦しんだり、あるいは収入が激減したりします。

その結果、低級我がにょきと出てきて やっぱりやらないほうがよかった」とささやきます。が、それは無視するべきです。

あなたが新しいことをしようと思ったことこそ、**新たな資質**を開花さ

せる時期が来た証拠です。物的なことに超然とするのは大変ですが、世界のシステムを知ると何も怖れるものではありません。見栄や権勢欲、金銭欲などを排したところに、本当の芸術は存在します。

誰に何を言われてもかまわないのです。そのつど面白いと思ったことをするべきですし、いちいち他人の言葉に惑わされない強い心を身につけるべきです。責任を取らない人間ほど、好き勝手言うものです。あなたの人生に責任を負うのは、あなた自身だけです。

■自分で見つける面白さ

お勧めしたいのが、あまり外部から情報を得ずに自らの発見を楽しむことです。たとえば、ふと何か発想が浮かんだとします。そのときは、おお、なんか変なことを思いついたぞ！、と本当に楽しいものです。すぐにでも行動したくてたまらなくなります。

一方、外部から色々な情報を得ていると、ああ、これはあれと同じことだ。一番煎じじじゃないか、と思うかもしれません。だいたい自分が思いついたことというのは、どこかで他人もやっているものです。ならば、より楽しめるほうがよいではありませんか。他人がやっているても関係ありません。自分にとっては大発見で楽しめばよいのです。

先日、クッキングパパの作者の方がテレビに出ていまして、同じよ

うなことをおっしゃっておいりました。ネットで見てから店に行くこと確認になってしまふ。自分で発見する楽しみを大切にしたいと。まさに共感するべきものでした。

つまらないものでもよいのです。結局は一番煎じでもかまいません。そのとき自分が楽しい気持ちになればよいのですから、できるだけ他人に相談しないで自ら率先してやるべきです。そこでつまらないルールや制限から妨害を受けても気にしないことです。楽しいからやっているのだから、あれこれ他人に言われる筋合いはありません。楽しいことは大切なことです。

■つまらないことはやらなくていい！

色々怒られそうですが、**つまらないことはやらなくていい**です。よく世間では、お金を稼ぐためにつまらない仕事もしないといけない、なんてことを言いますが、どうにも納得がいかないのです。

たまに電話で遭遇しますが、今にも死にそうな声を出している人がけっこういます。そのたびに、ああ、この人は仕事がつまらないのだな、と思うものです。

前に年金のとりたて：げふんげふん、に来た人も、ものすごく斜に構えていました。軽く話してみたら、その人は社会に不満を抱きつつ

も、どうせ変わらない、という思いで仕事をしているようでした。

変えられますよ。自分自身は絶対に。世界を変えるのではありません。**自分を变える**のです。

どんなに物的に苦しくても、理想があればくじけはしません。どんなに逃げ出したくても、燃えるためには立ち向かうしかありません。それは世界の問題ではなく、自分自身の問題なのです。年金の彼も、それを知ったら狂喜乱舞することでしょう。それを知るまでは、しばしその闇の中で叡智を悟らねばなりません。

人は、環境のせいにして逃げる傾向があります。どうせやりたい仕事じゃない、と思っていると、それを逃げ道にしてしまうのです。

ならば、**あなたが好きな仕事をしなさい**。お金が得られなくても、誰からも認められなくても、あなたがしたいことをしなさい。仕事とは、

自らの資質を使って人々の役に立つことです。**仕事＝お金を稼ぐこと、ではありません。**

大好きな仕事をしていれば、どんなつらいことから逃げられなくなります。問題があれば解決しようと必死になりますし、次第に謙虚さも身につけていきます。その意味で、やりたくないことはしないでよいのです。

つまらないと日々思いながら死人になるよりは、いつも前向きに開き直ったほうがよいのです。

■神は仕事を目の前に置かれている

ホワイトイーグルは言います。神はあなたに仕事を与えておられる。

目の前にある仕事を静かにしなさい。もしあなたに違う仕事が与えられたときは、**おのずと環境が変化します**、と。

もしあなたにやるべきことがあるのならば、**目の前**にあります。あなたが自ら捨てない限り、そこにあります。

神は、精一杯努力する以上のことをお求めにはなりません。心静かに、そして楽しみながら仕事をすればよいのです。あなたの置かれた環境で精一杯がんばればよいのです。そこで愛を目指して静かに暮らしていけば、カルマの清算は愛の人生へと変わります。

筆者はこうして絵やゲームに携わっていますが、そのおかげでまったく家から出ない生活を強いられています。私にとっても、時に退屈なもので、とても疲れるものです。きっとあなたには真似できないでしょう。これは私にしかできないことなのです。

あなたの目の前の置かれた仕事は、それがどんな物質的な仕事であれ、あなたにしかできない奉仕の仕事です。目の前に置かれた仕事を、

心楽しく、かつ静かにこなしていきなさい。

逆に、環境が変わったときは、その退屈さから解放されるチャンスなのです。クビになったり、倒産したり、色々なことが起こると思いますが、次に新しい仕事が待っているのですから、楽しく待てばよいのです。

もうやらなくてよいということは、それらの煩わしさから解放されたということです。**神は、自分を苦しみから解放してください**、と前向きに考えることができます。

仮にお金を失ったのだとしても、それはもともと神のもので、あなたものではありません。神は全知全能ゆえに、**不必要なものをいつでも奪うことができます**。

そう考えるためにも、目の前の仕事に魂を燃やして挑まねばなりません。全力を尽くすからこそ、もうやり残したことはない、と真っ白になれるのです。

大切なのは魂の成長なのです。死ねば、物的なものはすべて置いていかねばなりません。たかが百年くらいでなくなるものを、どうして惜しむ必要がありません。人は永遠に生きるのですよ。

■楽しければ楽しいほどよい。苦しみも楽しみのスパイス

シルバーバーチは、楽しければ楽しいほど、神の御心に近づくと
言います。ホワイトイーグルも、私たちは、あなた方の厳しい顔を見
たくありません。楽しく笑っている顔が見たいのです、と言います。

生命が永遠である以上、実はすべてが楽しい出来事なのです。その
新鮮な体験によって日々を生き生きと過ごすことができます。

苦しみは楽しみを増すためのスパイスです。苦しみを楽しめるほど
好きなことをしてください。

■カレンダーを捨ててみる

外に目を向けてみると、草木の匂い、鳥の声に満ちています。太陽
は昇り、風は吹き、大地は実りを与えてくれます。ああ、なんと
素晴らしい世界でしょう。この世界は、すべて完全なるシステムによ
って動いています。風もすべて神の命を受けた自然霊によって管理さ
れているのです。偶然に起こることは何一つありません。

では、どうして人々はつまらない顔をしているのでしょうか。それは、
自らのルールによって自らを縛っているからです。月末までに支払い
がある、食べ物を買うにはお金が必要だ、いついつまでに工事を終わ
らせねばならない。自らが勝手に決めた制限に苦しみ、心を病み、病

気になっています。まったくもって馬鹿らしいことです。

自然は何一つ強制していません。実りは毎年与えられ、全人類が飢えないように調整されています。仮に飢えているとすれば、誰かが勝手に独占するからです。

自然は、「この果物はいくらで買え、などとは言っても言っておりません。勝手に独占し、金額を決め、それによって病気に陥っているのが現状です。そんなものに付き合う必要はありません。

インディアンの言葉に、人は草木の本も自ら生み出せない、とあります。まさにその通りなのです。 **億円用意しても、草木の本も買えない**のです。北斗の拳で、金が紙くずになりましたが、あれと同じです。

あなたを縛るものが何であれ、つまらないものはさっさと捨ててしまってください。制限を設けるものに従っていたら、あなたの可能性が小さくなってしまいます。経験上、物的なものを一つ失うことに、あなたは**一つ自由になっていきます**。その引き換えに、より大切な霊的な悟りを一つ得るのです。

これは、困難から逃げろと言っているのではなく、自然のリズムを最優先しろということなのです。霊的な法則は、種から芽が出て花が咲くように、**実にゆっくりとした工程を経て開花**します。それが本来のリズ

ムなのです。

物的世界はその外皮です。外皮を優先してごたごた騒ぐより、中身の種の成長をゆっくり待つべきです。霊的なリズムに身を任せれば、ちょっとした困窮に騒ぐこともなくなります。大変なときに余裕を持つことができ、つらいときに笑えるのが強さです。

■すべてに100点満点をつける

自分以外のものを認めるのは難しいものです。自分が一番よいと思っているものが、自他共に一番でない気が済まないものです。他人を評価するときも、つつい辛い口に見てしまうものでしょう。

色々なところでレビューの点数を見ますが、なんとも微妙な数字が多いものです。批判することはけっして悪くはないのですが、やはりつまらないものです。一人ひとりが違う人生を生き、違う考えを持っています。これこそ神が求められた**多様性**です。

神は完全であるがゆえに、多様性を欲しているといえます。そのために、我々は永遠に増え続け、進化し続けるわけです。そうでありながらも、すべては一つなのです。相手にすることは自分にすることと同じです。となれば、**相手につける点数は、自分の点数**なのです。

他人を傲慢な態度で評価すれば、あなたも同じように評価されます。

これが愛の法の原理です。

仮にあなたから見て程度の低い人間、あるいは程度の低い作品であっても、その人はいつか成長し、大きな仕事をやってのけるまでになります。善悪、良し悪しというものは、**その段階における進化の程度の比較**にすぎません。自分が最高だと思っているものも、自分が進化すれば小さなものに見えてきます。

ですから、すべてのものに百点をつけるべきです。これは、**他人を認めること、褒めること、愛すること**であり、自分自身を認めることにもつながります。それにはその意味があり、その人にはその人だけの価値があることを知ることです。

仮にあなたが気に入らず、低い点数をつけたくなったら、評価しないことです。そんなつまらなく、小さなことをするべきではありません。我々が目指すのは、ピラミッドの頂点、山の頂上、黄金の天国のみです。

そこにたどり着くルートは人の数だけ存在しますが、ゴールはみんな同じです。その人にはその人のやり方があるのです。それはいつも百点満点です。

これと違って、物事の真贋を見極める目というものがありません。

これは大いに発達させていくべきです。ただし、心には常に寛容と愛を満たしてください。

■こんがらがったものは、一度手を離す

こうして困難の大切さ、それに立ち向かう素晴らしさを説いていますが、**時期でないものは、どうあっても成し遂げることはできません。**

これはとても重要なことです。

物的なものは、とかくごちゃごちゃしていて、すぐに壊れたり絡まったりします。特に金銭的な物的結果であったり、流れであったり、他人に頼むことだったり、あなたの手の届かないところは、やはりどうにもできないものです。

あなたが意地になって力づくで成し遂げようとしても、**結局徒労に終わります。** それは時期が来ていないからです。

霊的な法則は、実にゆっくりと自然のリズムに乗って作用していきます。それを外皮である物的なやり方でどうにかしようとしても、最初から不可能なのです。

ならば、**一度手を離し、神にゆだねること**です。ホワイトイーグルいわく、神の手によって正しいものはしっかり正されます。つまり、霊的な法則の条件が整ったときに、物的なものも与えられるのです。そ

して、さらによいものになって戻ってきます。

それまではもどかしいかもしれませんが、心を切り替えて、**目の前**にある、**今できる仕事を心静かにするべき**です。逆に言えば、今はその仕事をする時期なのです。

心を静め、神への信頼を高めることだけでも、背後霊たちにとっては仕事がやりやすくなるものです。霊的な法則を動かすためには、こちらが条件を整えねばなりません。その条件とは、まずはなにより心を落ち着けて生きることです。心に愛を、仕事に誇りを、他人には寛容さをもって生きることです。そうすれば、時期が来れば与えられます。

これは筆者も痛感するところで、みなさんにも特に知っておいてほしいことです。作りたい作品が今すぐに作れるわけではなく、六年越しに叶えられることがあります。他の方の書を読んでいても、二年経ってから機会が巡ってきたとか、二十年経ってようやくやれた、という話はよく聞くものです。

それまではとても悩みますし、失望するものです。ですが、戻ってきたときは自分も成長していますから、さらによいものが作れるのです。そうして最後には、**やはり神は完全だった**と改めて感じるわけです。

私たちには法則は見えないですから、どのように進んでいるのかわかりませんが、背後霊を含め、その時代のその時期に合うように調整されているでしょう。

人がどう不満に思っても、神の法は完全で完璧なのです。霊界という場所は、完璧に組織されたところです。守護霊もまた、その上の高級霊からの指導を受けています。時期を待たせることで、その人間の我慢や忍耐を鍛えていますし、そうした失敗は、さまざまな教訓を学ばせるチャンスでもあります。

物事には、すべてにおいて意味があるのです。それだけは間違いありません。うまくいかないときは、むきになって立ち向かうのではなく、冷静になって静かに仕事をする事です。心を乱せば、波長が乱れ、さらに絡まってしまいます。

もしかしたら、地上では成し遂げられないものもあるかもしれません。仮に成就できなければ、やはりそれは時期ではなかったのです。発見があまりに素晴らしすぎて、今の人類には早すぎると判断された場合は、秘密にされることもあるそうです。

忘れてならないのは、自分は神であること、**自分を通じて神がその仕事をすると**いうことです。それならば、すべて神にゆだねるべきです。

神が必要だと判断したときには、すべてうまく回りまわります。